



ロータリー：  
変化をもたらす

Rotary



# 「楽しい例会、楽しく食事、健康な毎日で奉仕の実践」 山形南ロータリークラブ会報

ROTARY INTERNATIONAL DISTRICT 2800

RI会長：イアンH.S.ライズリー 2800地区ガバナー：鈴木 一作 ガバナー補佐：鈴木 政康  
会長：伊勢 和正 幹事：石山 祐介 会報・史料委員会 委員長：間木野仁美  
委員：金田 亮一 谷池 正弘 鉄 浩二 鈴木 崇弘

## 第2216回例会

2018-5/29(火) 天気(晴れ)

□例会場：ホテルキャッスル

□点 鐘：PM 12:30 伊勢 和正 会長

□司会進行 (SAA)：佐藤 直人 君

□ロータリーソング：「山形南RCの歌」

### 会長挨拶



皆さんこんにちは。お客様をご紹介いたします。本日卓話を頂戴する東北芸術大学基礎教育センター教授渡部泰山氏と新入会員の山形タクシー社長の那須尚平君です。

先週24日に山形の「山寺と紅花」が文化庁の認定する日本遺産に認められました。そこで山寺に関し興味深い話をひとつだけ。お聞きになった方もいらっしゃるかもしれませんが、山寺の「法燈」と「油断」についての話です。伝教大師澄は中国浙江省にある天台山から法燈を持ち帰り、788年自ら開基した比叡山延暦寺の根本中堂にそれを献じました。それから72年後の860年に延暦寺第三

代座主の慈覚大師円仁によって山寺の立石寺が開かれ、延暦寺の法燈が立石寺に授けられました。しかしその後1571年に織田信長が三

の軍勢で比叡山を攻め、全山は火の海となりその法燈はもろくも消え去ったのです。その時立石寺の法燈が最上川を下り日本海を渡って比叡山に届けられ法燈は見事によみがえり今日に至っております。

ここで油断という漢字についてですが、油断とは油を絶やして火を消してしまうことを言います。大事な法燈を守り伝えていくには油を絶やさないことが肝心です。常に新しい油を継ぎ足していくこと、油は創意工夫でありイノベーションです。それを注がないと火は消えてしまいます。延暦寺・立石寺の法燈も1,230年間一度も消えずに油を注がれながら揺らぎ続けております。これは伝燈（伝統の意と解されます。）を積み重ねていくことをさし、師から弟子へ本質となる部分はしっかり守り、他は時代に応じて変化させる不易流行の連続であり、その事がいかに肝要であるかを指し示しております。油断とは漫然と何もしないところに潜んでいるわけで、自分にあてはめてこの競争の激しい世の中であって常に変革は大切だと心した勉強会でした。

### 幹事報告

石山 祐介 幹事

1. 今年度の米山奨学会及びロータリー財団への寄付は今月末で締め切らせていただきます。寄付を予定されている方は本日中午に幹事までお知らせください。『緑の募金も』本日で締め切ります。
2. 来週は委員会継継フォーラムです。大委員長の方は次年度への引継ぎ事項の発表をお願いいたします。

### 新入会員紹介

（株）山形タクシー 代表取締役  
那須 尚平 君  
スポンサー  
伊勢 和正 君



米山功労者表彰 鈴木 利明 君



### 委員会報告

#### ■ニクニコBOX 宮舘 順治 君

伊勢 和正君 渡部先生、本日は卓話宜しくお願ひいたします。那須さん入会ありがとうございます。

石山 祐介君 先週の次年度大小委員会に出席できず申し訳ありませんでした。

高梨 和夫君 那須社長入会ありがとうございます。

本間 安信君 大久保ノミニーの激励会で紅花僣使っていただきましてありがとうございます。

#### ◇6月の記念日◇

会員誕生日 山下 宏君・高梨 徹也君・本間 安信君・浅野 裕幸君  
鈴木 崇弘君・金田 亮一君・矢尾板信孝君・柴田 健介君  
結婚記念日 土肥 成二君・間木野仁美君・丹野 善将君・佐藤 直人君  
鈴木 利明君・高梨 和夫君  
奥様誕生日 谷池 正弘君・高梨 和夫君・川合 賢助君  
企業創立記念日 青山治右衛門君・山田 仁君・布施 富将君・鉄 浩二君

#### ○本日出席・前回修正出席

	会員総数	出席義務会員数	出席会員数	出席率
本 日	55名		34名	
前回修正	54名	48名	46名	95.38%
他クラブで メークアップ された会員	(米 沢) 伊勢 和正 石山 祐介 青山治右衛門 武田 和夫 大久保章宏 (山形西) 山下 宏 (地 区) 鈴木 政康 中村 篤			

※本日の結果は2週間後に報告 ※修正は2週間前の結果報告 出席会員数÷算出会員数=出席率  
算出会員数とは？ 出席義務会員+メーク免除会員の出席者  
出席会員数とは？ 出席義務会員の出席者+メーク免除会員の出席者+メーク会員

例会場／ホテルキャッスル 例会日／毎週火曜日 12:30～13:30

事務所／山形市十日町1-1-26 歌懸稲荷神社 社務所ビル2F TEL.023-632-7777 FAX.023-624-5200

山形市内 例会日案内

月 曜 日

山形西・山形イブニング

火 曜 日

山形 中央

水 曜 日

山 形

木 曜 日

山形 北

金 曜 日

山形 東



## 「死んだ父の桜の花」

東北芸術大学基盤教育センター教授  
渡部泰山氏

皆さん、こんにちは。ご紹介にあずかりましたけれども、そんな大それたことをやってきたわけでもなければ、どちらかと言えば地域の中でさまざまな人に支えられて、今日縁があって、芸工大にいるというふうな状況であります。美術館作っただけでも地域を元気にしたいと、それから芸術家の中で、お金持ちの作ってほとんどないもんですから、なんとか貧しい若い芸術家を支えたいということで、個展や展覧会開けるような、だれもが地域の人が生活の一部のようにして、芸術を鑑賞できる場がほしいということで、たまたま山形東高を退職したときに、見たことのない金額が通帳に入っていました。20代のころからささやかな夢があって、地域の中に芸術や文化の香りのするようない空間が欲しい、実現する時が来たということで、女房はものすごく楽しみでこれらの人生というものを悠々自適に送ろうと思ってたんですけども、そのお金を全部使わせてもらいました。そこに、若いころから新聞とか雑誌とかそういうところに物書きとして原稿を書いていましたので、原稿料が出ると、ほとんど無名の作家の作品を買っていました。2万とか3万とかいうことで、ですから美術館ができた、そこに常設する作品はもうすでにそろっていました。女房に見つからないように、隠していました。使用料も鑑賞料も入館者はいっさい無料と、私が生きている間はいらぬということ、どなたでも空けば利用してもらいます。地域のかたはクリスマスにはクリスマスコンサートとか、小学生たちの学芸会をやったり小さな演劇をやったり、その作家たちが展覧会をしたりと、3年前前に開館して、宣伝もインターネットもホームページもなにもやっていないのに、好きな人がくればいよいよと作った美術館ですが、3年程でちょうど4,200人を突破しました。ぜひロータリーの皆さんも遊びにちろっと寄っていただければと思います。4,200人、これが多いか少ないかというのは難しい問題です。名もない小さな村の中に美術館ができた。でも半分以上は、実は県外のかたです。東京とか、神奈川、大阪、沖縄からも来たことがあります。実は、大学の教授なんて肩書負っていますが、それこそ家族をはじめとして、私の知人、友人たちに多くのご迷惑をかけて、あまり偉そうなことを語らないで生きていかなければいけない、そういう人間だと思ってきたところでした。とくに女房には頭が上がらないと。確か退職金もらったときに女房が結婚するときに、「退職金が出たら世界一周豪華クルーズで一年間回りますよ」と言ったらいいんです。でも、記憶にございませんと。今、全然記憶なかったもんですから、これからは、長い人生というふうにしてきて、でも、その美術館作る、全部使わせてほしいと言った時に、最大の応援者になってくれたのは二人の娘でした。二人の娘とも、医学のほうに進んで、現在新庄に開業したり、研究所のほうに勤めたりしているんですが、その娘たちが密かに小さいころから私、洗脳していましたので、「美術館を作るぞ」と。ですからお父さんの夢を実現させてあげたいということで、女房の説得にさりげなく神経逆でない程度に、少しずつ包囲網を固めていた、共同戦線を張ったと言えるかもしれません。

最近私はここ4、5年新聞を開くと必ず目を通すところがあるんです。今までは自分にそんなことは訪れるはずがない、そう思っていました。そこに興味も湧いて、なんだろうと目を留めることはないだろうと思っていました。しかし多くの先輩たちは、友人たちが先輩の、ある一定の歳になると新聞を開くと、必ずその欄に目が留まるんだよね、ということをよく言っていました。私はそんなことはないだろうと、人生いきき、先にくもものあとにくももの同じですから、ところが最近4、5年前、必ず新聞を開くといつか。それは人の死亡欄です。山形市から始めてずっと入っていく、だれが亡くなって何歳で亡くなったという死亡欄が、必ず自分の、開くとそこから目が入ってしまう。これはなんなんでしょうね。先輩の皆さんにお聞きしたいんですけども、特にそういうことが気になったのは、今からちょうど15年前に私の父がこの世を去りました。83歳でした。がんにかかりまして、手術ができないと言われて余命半年と命の宣告されて、父親の孫たちとともに医師の国家試験を控えているという時期でした。半年の命ということで、私なんかよりもはるかに及ばない、父は読書家でしたし、まめにメモ、ノートをとるような、物静かでも、私も小さいころから大きな声を聞いたり、怒鳴ったり怒られたという経験は全くありません。孫たちにも優しいし、限りなく私にはかなわない父親だ。もちろん立派な社会的な地位のある男の人ではなかったんですが、民間の企業に勤めて、勤め終えて生き抜いていった男ですが、この父が半年しかないと言ったときに、病院で介護をするんじゃない、家で介護しようよと、最後死のうしろのうしろのことを家族で話し合っ、介護ベッドというのを無料で借り、介護保険制度ができたもんですから、それを借りて、そして主に私の妻が介護の中心になってお風呂に入れたりしていました。残りいよいよ3か月というときに、家族が集まって最後の家族の旅をしようということで、父が盆踊りがとても好きで、西馬音内に行きたいと最後言うもんですから、ワンボックスカーをかりて西馬音内に行きました。西馬音内の盆踊りは夜8時ごろから本番が始まるんです。遅いですよ。でも車いすをひいて、前のほうで盆踊りを見て、父が食べたいと言った夕ご飯が何かあったら、みそ田楽というんです。近くにたまたま売っていたもんでしたから、みそ田楽を買って、父がほおばっていた。夜中10時過ぎにワンボックスカーに乗って、家族全員、娘たちも夏休みで帰郷してしまっていたので、最後の旅を西馬音内盆踊りにして、帰ってきて、それから1か月くらいで状態が悪くなって、新庄の県立病院に入院しました。あとはもう時間がありませんでした。私は当時遊佐高校の教頭でしたので、庄内の単身赴任でした。たまたま、その日帰ってきたときに、私がベッドの脇にソファに泊まるようになったときに、父が夜中うたた声を立てているもんですから、危ないというふうにご心配な、そろそろ2か月、半年も近くなりましたので、今までは泊まるような余裕ありませんでした。初めて私が泊まったときに夜中12時ごろに「うーん」というなるもんでしたから、「親父どうした」と言ったら、親父の最期の言葉でした。私の耳元で言った言葉、それは「まだまだ」という言葉が最期の言葉でした。朝方、危篤状態に陥って、新庄の家に休んでいた家族全部連絡をして、父の最期の時間をすごったというふうな状況でした。話は少し戻りますが、この家族がそろったとき、両方の大学から二人の孫たちが戻ってきて間に合いました。この孫たちがまだ小学校1年生や3年生のころ、父が乗っていた当時の車「ダットサン」、まだ記憶にある、先輩の方はわかると思います。ダッ

トサンに乗っていました。たまたま日曜日だったもんですから、二人の娘孫、私の娘ですが、乗せて、西山に行くぞと言うんです。なんでもだろう。それは春5月でした。4月の下旬、5月。娘2人孫たちを乗せて、私も助手席に乗って、西山のほうドライブしたんですね。何の用事もなく、西山のある中腹の山のところに来たら、父は急に車を停めたんです。で、なにしているんだろと思つたら、車を降りて山の茂みの中に入っていったんですね。そしてしばらくして戻ってきました。今でも僕はその光景を忘れることはできないのですが、父は2本の山桜を、枝を折って、車に戻ってきました。そして車のドアを開けて後ろに座っていると、小学校1年生3年生の自分の孫にこの桜の枝をポンとやったもんです。となりに座っていた僕はかおなしでした。なんてしゃれたことやるんだと思って、やるもんだこの親父、と思って、結構自然でかっこいいなって思っただけです。忘れることができなかったですね。孫たちは1本1本の桜の枝を持って、喜んで「きれいだきれいだ」とはしゃいでいました。それからほどなく、すぐ自宅近くでしたので、10分ごろ運転して自宅に戻って、子どもたちの机の上にガラスの瓶に桜の花を娘たちは生けていました。私はこの光景を思い出して、今でも忘れられない。老いた父がこの孫たちのために、この4月に咲いた美しい山桜をこの子どもたちに渡したいと思つたこの父の魂から響いてくるような優しさを感じました。普段からそうでした。この父が今まさに、この世を去っていく、「まだまだ」といながらも、大学から夏休み戻ってきた二人の娘たちは国家試験を控えていたけれども、その娘たちが揃って父の前でさすりながらいくわけですよ。そして心音の音がビビビビ、ピーとなるわけですね。ご臨終です。孫たちが父の胸にすがって泣き泣き倒れて行って、私の父親に抱きついていました。母親は父の強い方で、その瞬間卒倒して倒れました。別なベッドに運ばれました。そのあと実は死んだあとに隣の病室だと思っただけで、看護師さんたちが体を美しくきれいにするんですよ。清めるというきれいにする。そのときに二人の娘は看護師さんに、私もちょっと想像つかない行為でしたけれども、「看護師さん、私たちも一緒におじいちゃんの手を握らせてください」って二人の娘が看護師さんに申し込んでいるんですね。え？と言って、今どきの若い子がおじいちゃんの手を握るなんて美しくするなんていうなんていうふうな行為に及ぶ人は、看護師さんはいままで見たことがない、聞いたこともない。「かまいませんよ」といってしばらく隣の病室に行くと、娘たちがずっと看護師さん以上に、私の父の体をきれいに泣きながら泣いていたということでした。娘は私が風呂に入ると、パンツを放り投げていると手でなんかつかまないと、ほうきでもって洗濯機に運んでいくような娘がいて、老いて一見、まさに肉體滅するということの老いた人間の肉體をいとおしに拭いていく、愛している、この姿を想像したときに、初めて私はこの父親に最後まで勝てなかったなと思いました。最後までこの父親に勝てなかったな。偉そうに教員だろうが校長だろうがなっているけれども、名もない一人の男に私はやっぱりまだ勝てないなと思いました。そして、あのときだった私の娘の優しさというの、たぶんまだ父が元気だったころ、あのダットサンで孫を山に連れて行って、桜の枝を2本折った記憶が子どもの中に延々と、青年期を経て父親の現存として、孫たちの中に生き延びていたということを感じざるを得ませんでした。死の時にそのことを思いました。どんなに皆さんの場合、実業家という厳しい社会の中で生き抜いている皆さんですが、もしかすると会社の命運というものが本当にかかるといって、真に力になっていくのはイノベーションとか、あるいは新しい技術革新、新しいデザイン、そういう事よりも今、会社の代表の皆さんの目の前にいる、足元において、懸命にまるで家族のようにして社長なり上司の方に心懸けて、魂とともに会社を支えている、こういう人々の会社と経営者とトップリーダーへの深い愛なのではないかと。最後に勝ち残る企業というのは、この組織集団のマネージメントの中で、いかに深い会社の人への愛があるかどうか、そんなふうなことをこんな拙い話から私なりに接続できるのではないかと。どんなにイノベーションが進んでも技術革新が来てても、新しい時代が、あるいはグローバル化、そういう社会が来るというても、最後によりどころになるのは人間の深い愛と優しさで情熱だと思います。それは私が長い間教育の世界の中にいて、変わらない不変なものだとつくづく感じました。芸工大が時代の最先端をいって、デザイン思考というイノベーションの新しい学問をしていますが、そこで子ども達に教えていく、教員の中に学生への深い愛と情熱と、それこそ魂で響く行為ができなかったならば、そんな大学はすぐ潰れます。最後によって立つのは人の、というふうに思います。そういう意味では会社のトップにおられる皆さんが最後に目の前にいる素晴らしい社員がスタッフの方々への深い愛と敬愛を持って、豊かな関係性が結ばれたところに、おそらく次の新しい時代の発展の礎が、きつとヒントがあるのだろうなというふうに思っています。なお、父が死んだあと大変困ったのが、私の母親です。今95歳です。まだ認知症にもなっていません。その母親が、どこに行くにも死んだ父の写真、かけている写真を小さくしたもつを持っていくんです。バッグに入れて。家族にレストランに行くというふうなコップがあったら、ここに必ず写真を置くんですよ。で、いただきますと一緒にするわけですよ。みんな子どもたちがいるときに、そうするとレストランの方が、女性が運んで、びくびくするわけですよ。ここに仏壇に添えている写真があるわけですから。どこにいても何しても父親が生涯に渡って家族の一員である、今も生きているということを私たちに示し続けてくれたなと思います。日本の言葉の中には「さばのかけら」といって、死んでいく人間は私たちの身近の生活のすぐそばにいます。毎朝仏壇にできたての白ご飯とみそ汁を毎日それやるんですよ。一週間に一回くらいおろめいとも思いつけず。毎日それやらないと機嫌悪いんですよ。ご飯炊かないと、嫁が機嫌悪いわけですね。この孫たちも、必ずみそ汁とチーンとやるわけですよ。なにが困ったことがあると「いちゃん」チーン。これが習慣化となる祖父を敬ったり、おばあちゃんを敬ったり、そういう自然な家庭の文化が気付かれてきたなということだと思います。私たちの人間の関係の中で、どっかに皆さんのような立場の高い方々の中にも、失って人間関係の深い愛と魂というものがよくあると思います。それこそが最後に多くの人間や関係者に届けていくものだというふうな思います。私も残り長くない現役生活だと思っただけで、この美術館もそうでしたけど、みんなの幸いのために自分ができること、なにか、そんなことを考えながら、自分の残りの時間を生き抜いていきたいなと思っております。今日、実は見たら、金田さんなんかはもう私が30歳のころからの長い付き合い、ずっとご迷惑をかけて。また菊川先生なんかは教育委員会時代、大変お世話になってばかり、難題ばかり、ご指導いただきました。たぶんこうやって皆さんを見ると私知っている、どこかでお会いしたなという方も結構いるんですが、ごあいさつできません。どうか、これからは皆さんもお気を付けて、お互い支え合い愛愛しながら、がんばっていただけたらうれしいし、またどこかでお会いできたらぜひ声をかけてもらいたいなと思います。今日は各谷さんから頼まれて断るわけにいきませんでした。美術館さうとう安くしてもらいました。断ることできません。ご清聴ありがとうございました。